

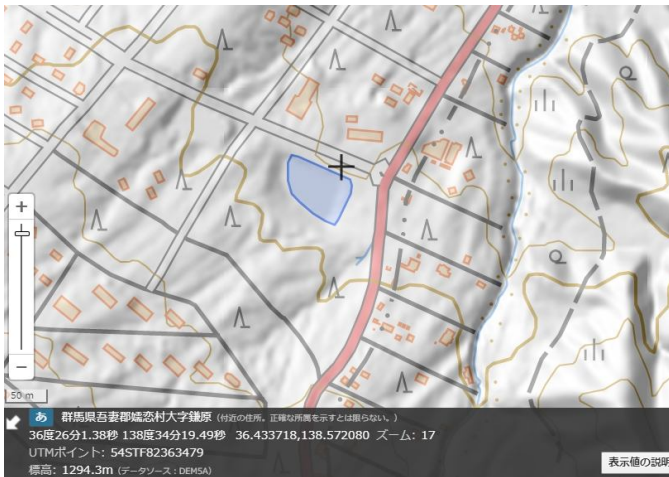
「湖面の惑星(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

水面に反映する天体(恒星や惑星)を撮影するのは、非常に難しい。空の暗い場所で、適当な大きさの池か湖があり、しかもほぼ無風である必要がある。周囲の風景も一緒に写すには、月明か適度な灯火があったほうが良い。



浅間高原には、池や湖はほとんどない。火山性の地質で、雨水はすべて伏流水になってしまうのだ。川ですら、浅間山に近いところでは「枯れ川」になっていて、大雨の時以外は水流は見られない。しかし、人口の池はいくつかある。釣りぼり池や、観光用のボート池などだ。国道 146 号線沿ういの別荘地「ハイランドパーク」の入口にも、ボート池がある。



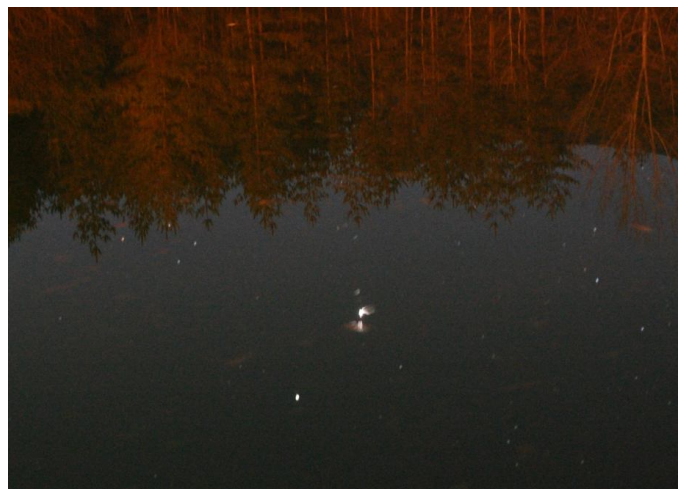
シミュレーションソフトに、観測地の正確な緯度・経度を入力すると、浅間の左稜線に、木星と土星が沈み、角度的にそれがちょうど湖面に反映するとわかった。ここなら、湖面に反映する天体写真を撮れそうだ。



先日の日没後、実際に計算した地点に行ってみた。幸い、ほぼ無風である。シミュレーション通りに木星と土星が沈むところだった。周囲には適度な街灯があり、手前の樹木を引き立てている。



この日はすでに満月近い月が昇っていて、空の状態はあまり良くない。それでも木星の衛星まで写っている。大気の状態(シーイング)は非常に良かった。



湖面も撮影してみた。木星と土星だけでなく、他の恒星の反映も写っている。しかし、私はこの日、標準レンズ(50mm)しか持っていなかったのも、「天体」と「天体の反映」を別々にしか撮影できなかった。